

# 鈴溪資料館

The Raykay Archives



## 小鈴谷村と盛田家

小鈴谷村は尾張国知多郡に属し、知多半島西海岸のやや南寄りに位置し、江戸時代を通して村高二百二十石ほどの尾張藩領の村であった。人口は江戸時代前期には約二百人、江戸時代後期には四千人を超えた。小鈴谷村の村人たちは農業、漁業、廻船業、醸造業などのさまざまな産業で生計を立てていた。

江戸時代の盛田一族は本家を中心に小鈴谷村の庄屋をつとめ、領主の村支配の一端を担った。それと同時に地域の有力者として、小鈴谷村やその周辺の人々の生活にも深く関わっていた。

盛田一族は、本家の盛田久左衛門家を中心に、四代久左衛門正治の代に分家した太左衛門、太左衛門から分家した太助家、太助家から分家した権六家などの六家であった。とくに十一代久左衛門命祺は幕末から明治期の激動の時代を生き抜いた人物であった。文明開化のなかで葡萄酒の醸造を始めるとともに、さらに最先端の教育を取り入れようと、鈴漢義塾を建設した。鈴漢義塾は、政府高官、経済人、教育者など優れた人材を輩出した。

盛田一族では醸造業を営んでおり、本家、太助家、権六家は酒造業を営んでいた。酒造業のさかんな知多半島のなかでも、酒造家としての経営規模は大きかった。半島の利便性を活かし、船で遠くに運ばれた盛田の酒は江戸の人々にも愛飲された。

## 新倉

新倉は盛田家の私的なものの保管場所であり、当主が許可をしなければ入ることのできない蔵であった。主として書籍・古文書類などと生活用具などの道具類が納められていた。

代々の当主が収集した和書などの書籍類は江戸時代に作成されたものが多い。明治以降の新聞、実業雑誌、婦人雑誌、子どもたちが使った教科書類、盛田家に送られた書状などもある。また、当主は毎日の日記を付ける習慣があった。日記からは日常の暮らしぶりに加えて、当時の社会の様子を読み取ることができる。

十五代昭夫に関するものも多数残されており、なかには出生記録や学生時代の日記などが含まれる。出生記録は次世代の当主として大切に育てられている様子がわかる。日記には、友達との映画評などの楽しみ、進路について苦悩など、青春の二コマが綴られている。資料の一部は盛田昭夫塾で紹介されている。

道具類は江戸時代から昭和初期までのさまざまなものが収納されている。正月用の祝い膳や酒器、客人をもてなすための重箱などの供膳具などである。なかには屏風・掛軸などの芸術性の高いものや大名時計などの珍しいもの、当主愛用のライティングデスクなどハイカラなものもある。なお、紙倉に納められていた書籍・古文書類は、平成三〇年(二〇一八年)より、日本福祉大学知多半島総合研究所によって調査・整理を行っている。

## 紙倉

紙倉には、小鈴谷村の庄屋をつとめた時代の村方文書や、醸造業などの経営文書が保管されている。また、乾倉(現存せず)に納められていた冠婚葬祭関係などの古文書は紙倉に移管された。

村方文書は、尾張藩の法令など記録した「御触留」、土地台帳としての「検地帳」、年貢を課した「免定」、人身把握のための「宗門人別帳」などがあり、江戸時代前期から幕末まで残されている。十七世紀から残されている村方文書は珍しく、江戸時代を通して村の状況を把握できる史料として貴重である。

経営文書は、江戸時代前期から明治末年までのものが残されている。盛田家では十七世紀から十八世紀前半にかけては漁業、廻船業、醸造業、肥料商など多角的な経営を行っており、その後、醸造業を中心とした経営に転換した。帳簿や取引先との仕切、書状などが数万点の規模で残されている。現在の盛田株式会社銘柄につながる「子の日松」は江戸時代から使用されていた。明治時代には、六貫山(武豊町)にぶどう畑を開墾し、山梨県から技術者を招き、ブドウ酒の醸造を行った。

そのほかにも、盛田家を訪れたことのある二世十返舎一九の作品が残されている。また、富士山・立山・白山を巡る三禪定の史料などもある。

なお、紙倉・乾倉に納められた古文書は、聖心女子大学によって調査を行った。昭和五八年(一九八三年)に『盛田家文書目録』の上巻を、翌年に下巻を刊行した。



昭和20(1945)年 盛田合資会社 京都支店

昭和20(1945)年 子日松(ねのひまつ)等の酒樽





鈴溪資料館

盛田家本家

記念館「盛田昭夫塾」

## れいけい 鈴溪資料館とは

当館は、盛田家に伝来した歴史資料を保存・活用するための施設である。盛田家では紙倉・新倉と主屋の内蔵であった乾蔵が資料の保管に用いられてきた。そのうち紙倉・新倉はそのまま保存し、現在も収蔵庫として利用している。

蔵に納められた資料は、江戸時代初期から、十五代昭夫が青年期を迎える昭和戦前・戦中期までの長きにわたる。領主から村に出された御触留、検地帳、宗門改帳などの村方文書、経営に関わる帳簿や取引の際につくられた証文、教養を身に付けるための書籍、私的な書状、日々の生活を記録した日記など多様な資料が残されている。また、代々の当主愛用のさまざまな生活用具も残されている。資料館に残された古文書や生活用具は、地域やそこに暮らす人々の様子を伝えてくれる。

鈴溪資料館の名称に用いられた「鈴溪」は、江戸時代の村名・小鈴谷から採ったものである。明治時代に教育機関としてつくられた鈴溪義塾と同じ「鈴溪」である。鈴溪義塾が育んだ文化の伝統は鈴溪資料館に引き継がれている。

鈴溪資料館に残された資料は、盛田家の歩みを伝えてくれる。さらに、知多半島の政治、経済、文化、教育などの歴史を描くための素材であり、地域にとっての貴重な財産である。

### 鈴溪資料館

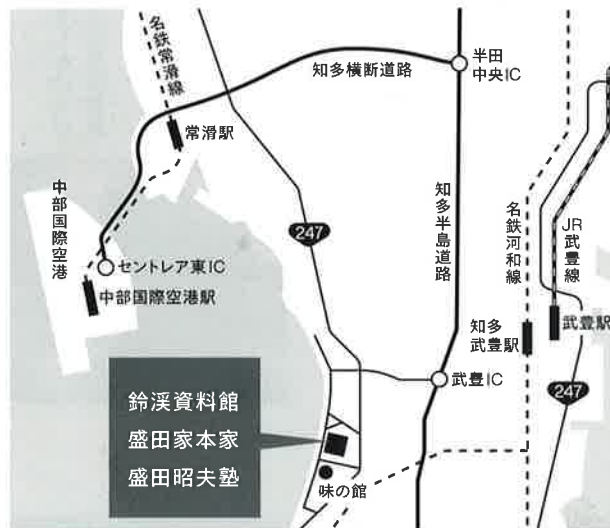
〒479-0807愛知県常滑市小鈴谷亀井戸 4-3 電話 0569-37-0370  
※資料館の見学、または資料閲覧をご希望の方はお電話でご予約ください。

### 盛田家本家

〒479-0807愛知県常滑市小鈴谷亀井戸7

### 盛田昭夫塾

〒479-0807愛知県常滑市小鈴谷亀井戸7-4 電話 0569-76-2865  
※盛田昭夫塾への来館予約はお電話では受け付けません。ウェブにてご予約ください。  
<https://akiomorita.com>



- お車をご利用の場合 知多半島道路「武豊IC」より約7分
- 電車をご利用の場合 名鉄常滑線「常滑駅」よりタクシーで約15分  
名鉄河和線「知多武豊駅」よりタクシーで約12分
- 飛行機をご利用の場合 中部国際空港よりタクシーで約25分

# 鈴溪資料館

The Raykay Archives



TENGAI  
FOUNDATION

<https://tengai-f.com>  
© 2020 TENGAI FOUNDATION



鈴浜資料館

盛田家本家

記念館「盛田昭夫塾」

### 鈴浜資料館

〒479-0807 愛知県常滑市小鈴谷字亀井戸 4-3 電話 0569-37-0370

※資料館の見学、または資料閲覧をご希望の方はお電話でご予約ください。

### 盛田家本家

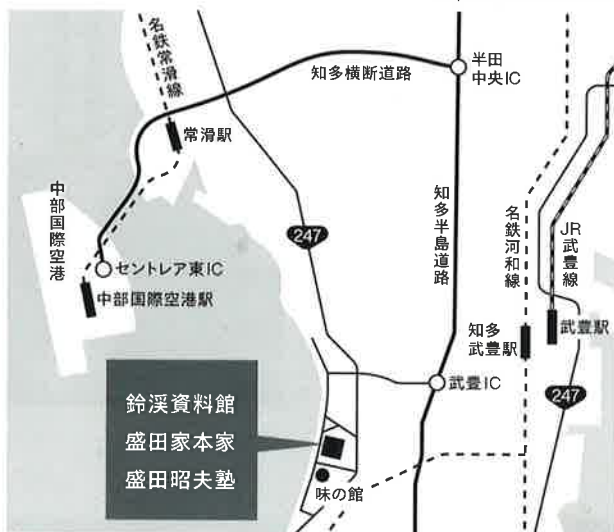
〒479-0807 愛知県常滑市小鈴谷字亀井戸7

### 盛田昭夫塾

〒479-0807 愛知県常滑市小鈴谷字亀井戸7-4 電話 0569-76-2865

※盛田昭夫塾への来館予約はお電話では受け付けません。ウェブにてご予約ください。

<https://akiomorita.com>



- お車をご利用の場合 知多半島道路「武豊IC」より約7分
- 電車をご利用の場合 名鉄常滑線「常滑駅」よりタクシーで約15分  
名鉄河和線「知多武豊駅」よりタクシーで約12分
- 飛行機をご利用の場合 中部国際空港よりタクシーで約25分



**TENGA**  
FOUNDATION

<https://tengai-f.com>

© 2020 TENGA FOUNDATION